

東京丸の内ロータリークラブ

第53回 例会議事録

卓話:チャイルドファーストジャパン 理事長
小児科医 山田 不二子 様

2020年6月3日(水)

会場 センチュリーコート丸の内
アカンサスノース・ルーム

① プログラム

- ◆ 司会進行 嘉納 英樹 幹事
- ◆ 開会点鐘 尾崎 由比子 会長
- ◆ 4つのテスト 玉木 仁 副会長
- ◆ ビジター紹介 今井 菜美子 副幹事

【卓話者】

- ・チャイルドファーストジャパン 理事長
小児科医 山田 不二子様

- ◆ ニコニコ報告 鷲澤 充代 会員
- ・尾崎由比子 会長

「今日は久しぶりの例会場での例会です。皆様お集まりいただき、ありがとうございます。山田先生、卓話を楽しみにしております。どうぞよろしく願いいたします」

- ・嘉納英樹 幹事兼会長エレクト

「皆様、センチュリーコート支援計画に御賛同いただき、心より感謝申し上げます。このセンチ

ュリーコートで皆様の御尊顔をまた拝見できて嬉しく存じます」

- ・古山真紀子 会計兼会長ノミネー

「山田先生、今日はよろしく願い致します」

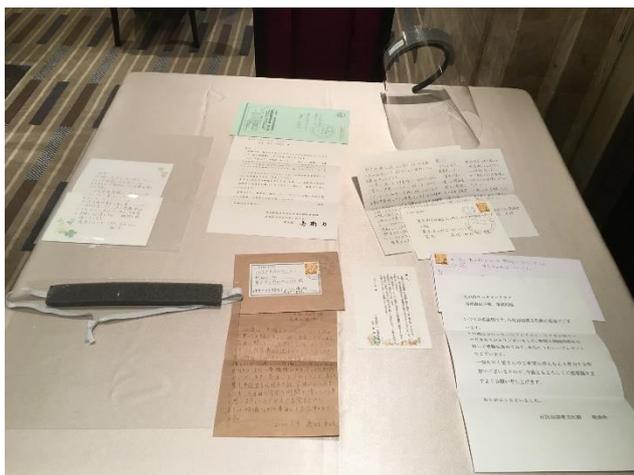
② 会長挨拶 尾崎会長

お久しぶりに皆様のお顔を拝見して大変嬉しく思います。本日は例会場の多大なるご協力の下、ソーシャル・ディスタンスを保った例会を開催できますこと、感謝したいと思います。丸の内は休むことなく例会を続けております。安全第一に「オンライン例会」という形をとって継続してきたということは、大変誇らしいことと思います。皆様のご協力ありがとうございました。他クラブは3月より休会が続いていて、6月も恐らく過半数は休会のままです。私共は、緊急事態宣言が解除になりましたので、今後は例会場で例会を行う予定ですが、昨日(6月2日)も「東京アラート」が発令されたことですので、今後の状況を見ながら理事で協議し、その都度皆様にご連絡していきます。どうかご理解のほどお願いします。

丸の内の進めていた奉仕活動プロジェクトのうち、フェイスシールド・プロジェクトに対して寄せられたお礼状の数々を本日は後ろに展示いたしました。このように多くのお礼状を頂けるというのは、奉仕活動をしている私達にとって、大きな力となります。ぜひともご覧になってください。

もう一つ、「例会場応援プロジェクト」ですが、緊急事態宣言中のオンライン例会ご参加の皆様に、例会場であるセンチュリーコート丸の内のお食事券を還元するものです。是非ご都合のよろしい時にお出かけください。次回例会でお渡ししますので、楽しみにしててください。

また、地区補助金を使って開催することを予定



しておりましたサイレント・フットのプロジェクトですが、こちらは実施が出来なくなりましたので、補助金を辞退いたしました。その分サッカーボールが宙に浮いてしまいましたので、障害児を持つ家族を支援する「親子はねやすめの会」の方に、コロナ感染を防ぐためのマスクを付けて寄付することとしました。この会の代表が東京神田ロータリークラブの宮地様です。宮地様には、次回例会にお越しただいて、贈呈式を行います。

これらのプロジェクトはすべて丸の内 RC 独自に行うつもりでしたが、地区から、コロナ関係の奉仕活動には支援金を出しましょうというお申し出がありました。そこで、フェイスシールド・プロジェクトと親子はねやすめにお送りするサッカーボールとマスクについては申請をしたいと思います。次に古山会計から会計報告をお願いします。

【古山会計報告】

先ほど会長からお話がありましたフェイスシールド・プロジェクトですが、材料費が 34,980 円、送料が 15,720 円、合計で 50,700 円でした。それから例会場応援プロジェクトについてですが、通常例会のお食事代は 4,000 円です。このうち、オンライン例会に参加された方には、1 回につき 1,000 円キャッシュ・バックをいたします。また、残り 3,000 円は例会場のお食事券という形で、例会場を応援いたします。コロナが落ち着いたら、ぜひお食事を

楽しんでください。それから、丸の内が設立以来寄付しています WWF についても、年間 10 万円の寄付を今年も行います。最後に、会費ですが、5 月 29 日までにお振込み頂きたいとお願いしました。ただし、今年はコロナの影響がありますので、6 月 15 日くらいまでの期限延長、あるいは分割払いを認めております。よろしくお願いします。

【高木元太会員入会式】

コロナの影響でペンディングになっていましたが、本日入会式を行います。おめでとうございます。(高木会員) 先日 Zoom でご挨拶致しましたが、改めてどうぞよろしくお願いいたします。皆さんのつけていらっしゃる会員章を今日付けることが出来て嬉しいです。



③ 幹事報告 嘉納幹事

(1) 5月19日送付細則案についての投票

皆様には趣旨のついた細則案をメールでお送りしました。それ以後どなたからも異議がありません。ただ細則上会員 3 分の 2 以上の承認が必要ですので、ご賛同頂ける方は拍手をお願い出来ますでしょうか？（拍手）ありがとうございます。

(2) 6月3日理事会内容報告

鷺澤先生の多大なるご協力の下、慶弔規程を現在理事会で検討しています。最終例会の一週間前くらいまでには、皆様にご提示します。

④ 会長エレクト報告

嘉納会長エレクト

・ クラブ協議会開催について（6月17日）

次回6月17日 1時～1時半頃までクラブ協議会を開催し、皆様と来期の話し合いをさせていただきますと思います。ご協力お願いいたします。

⑤ 出席報告

会員数	10名	ゲスト	1名
出席数	8名	ビジター	0名
欠席数	2名	出席率	80%

⑥ 卓話:

「コロナ禍と子ども虐待」

チャイルドファーストジャパン 理事長
小児科医 山田 不二子 様

ご紹介いただきました山田です。よろしくお願いいたします。思い返しますと2月22日以来の外食です。本日は美味しく頂きました。ありがとうございます。古山さんとは国際シンポジウムの通訳としていらして頂いた10年位前からのお付き合いです。そんな関係で今日のお話を頂きました。

本日は3部構成でお話します。まずは、概略＝入門編、そして船戸結愛（ゆあ）ちゃん（四国から東京目黒に引っ越して亡くなったお子さん）、その10か月後に起きた千葉県野田市の栗原心愛ちゃんの事件を紹介させていただきます。最後にコロナと子ども虐待というお話をします。



まず、「虐待とは？」です。皆さんがこの虐待という2文字からイメージするものと、私達に対応しているものとは随分ギャップがあると思います。虐待という言葉があまりに強いので、最近では「チャイルド・マルトリートメント（不適切な養育）」という言葉を使うようになって来ています。ただ、時にマスコミなどで、「不適切な養育」とは虐待と

健全な養育の間のグレーゾーンを指すみたいな報道のされることもあり、それは間違いです。虐待とネグレクトを合わせた概念をチャイルド・マルトリートメントと言います。虐待をもっと幅広く捉えていきたいと思いますということなのです。



グローバルスタンダードとしてのチャイルド・マルトリートメントの考え方は、保護者に限らず、子供より優位にある者が、その優位性に乗じて子供に危害を加えることです。(日本では虐待の範囲を狭めすぎており、それが問題を起こしています。)加害者は支配欲・コントロール欲に基づいて危害を加えるのです。言葉や態度で子どもを心理的にコントロールするのが心理的虐待。痛みを加えて子どもに恐怖を与えてコントロールするのが身体的虐待。コントロールに性を使うのが性虐待です。これは小児性愛者だけに止まらず、コントロールの手段が性ということです。性虐待は日本ではとてもタブー視されているので、例えばアメリカに比べて6分の1くらいしか発見されていません。

もう一つ、ネグレクトですが、これは子どもを守るべき優位な立場にいる者が、その子どもに必要なケアをしなかったり、子どもの保護活動を怠ったりすることです。虐待は当然故意に基づくもので、ネグレクトもわざと子どもを放ったらかしにすると思われがちですが、実は故意に因らない場合も含まれます。愛情を持って育てているが、能力が足りない(知的障害など)、または財力が足りないため十分なケアが出来ない場合などです。こうな

ると、今コロナ禍で経済問題を抱えている方の多くもリスクを抱えています。

日本の児童虐待というのは、18歳未満の子どもに対する「保護者による」虐待に限定しているところが、グローバルスタンダードとは異なり、ここが問題です。例えば、性虐待を受けても、子どもの多くは身体的に無傷です。なので、性虐待被害者とはわかりません。でも子どもは非常に恥ずかしい思いをしているし、口止めをされているので被害を訴えられない。つまり、「見えない、聞こえない」。そこに乗じて、家庭内だけでなく、家庭外でも起きている。保護者に限定してしまうと、この家庭外の性虐待が全く対象にならないのです。これが、日本の児童虐待防止法の最大の欠陥と言われています。これを改正する必要があると思いますが、なかなか壁を超えられません。具体的に法律でどう定義されているかということ、児童虐待防止法における児童虐待は、「保護者がその看護する児童について次の行為を行うこと」。

- ①「児童の身体に外傷が生じ、または生じる恐れのある暴行を加えること」。つまり暴力により子どもが怪我をしていけば、「しつけのため、教育のため」などと親がどんなに弁解しようとも児童虐待です。難しいのは「外傷の生じる恐れのある暴行」。外傷はないが子どもに非常に強い痛みが加えられている場合、例えば長時間立たされる、雨ざらしにされる、なども含まれます。ただし、立証は難しいです。
- ②性虐待の定義は、「児童にわいせつな行為をすること又は児童をしてわいせつな行為をさせること」。問題となるネグレクト(2000年に法制定、2004年改正)は、
- ③「児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食または長時間の放置、保護者以外の同居人による前二号または次号に掲げる行為と同様の行為の放置」となっています。後半は例えば、お母さんに結婚をしていないが同居しているパートナーがおり、そのパートナーが虐待をした場合です。その場合は、パートナーの虐待ではなく、お母さんのネグレクトだということです(父子家庭も同様)。特にママ's

ボーイフレンドによる致命的な虐待のケースは多いです。そこで同居人虐待を虐待に組み込むための苦肉の策として、「保護者のネグレクト」としたのです。すると、ママ's ボーイフレンドが性虐待をした場合、それは性虐待としては統計に表れず、ネグレクトに分類されるのです。つまり、実態が隠されてしまう定義になっていると言えます。

④は、「児童に対する著しい暴言又は著しく拒絶的な対応、児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力」です。すなわちDVがあることは、たとえ児童に対する虐待・ネグレクトが直接なくても、DVがその家庭に存在すること自体が心理的虐待にあたる、という定義です。これが、日本の児童虐待件数を押し上げているのです。今、警察から児童相談所への通報が非常に増えていて、その7～8割がDVです。これも諸外国とは違う対応です。

次に具体的なケースを見てみましょう。ある子どもにコップ大のあざがある。「どうしたの?」というと、「新しく来たお父さんに叩かれた」と言っただけです。本来はこれだけで虐待通報をしなくてはなりません。ですが、日本はまだ虐待通報に文化的に慣れていないので、ハードルが高い。それで、つつい通報しなくて済む方法を考えてしまう。実際にあったケースでは、小学校4年生の女の子の頬にあざがあることを学校の先生が見つけた。すると前述のように答えたので、その先生は「実母に聞けば本当のことがわかるだろう」と思い、家に電話して実母に聞いた。すると、「夕べうちの子は炬燵布団に足を引っかけて、タンスに頬をぶつけたので、その時の怪我です」と応えた。そこで、先生は通告をしなかった。その子は4年生の3学期から学校に来なくなり、また先生が家に電話したら「喘息の発作だ」と言われた。どうもおかしいと周囲が騒ぎ出した。すると実母と継父が警察に行方不明で届けた。大阪府警が80人体制で捜索しつつ、両親を問い詰めたところ、「暴力をふるったら子どもが死んだので埋めた」という自供が得られ、実際に遺体が発見された、という事件です。つ

まり、せっかく頬のあざを発見しながら、そこを通報につなげなかったせいで、子どもを死なせてしまった、ということです。このようなことが起こるのが虐待です。

では、次に2年前の目黒の結愛ちゃん事件です。当時5歳11か月でした。この翌月には小学校1年生になっていたはずでした。この一家は、お父さんが1年早く、お母さんと子どもは平成30年1月に香川県善通寺市から東京都目黒区に引っ越してきました。善通寺市でもいろいろあり、児童相談所に2度保護されています。舌が切れていたりお腹にあざがあったりと、医者からすると深刻な外傷なのですが、個々には致命的でないため、児相ではいずれも軽傷と判断されました。よって、医療機関から「子どもを施設に入れて欲しい」と懇願したものの、聞き入れられませんでした。それだけでなく、子ども自身からも一時保護施設に戻りたいと訴えていました。それも児相では認められませんでした。さらには、転居してしまうと、香川県で持たれていた危機感は東京都に全然伝わらない。結局おざなりになって、3月2日に亡くなりました。私は3月4日に警視庁から来た遺体の写真を鑑定しましたが、本当に痩せこけていました。骸骨に皮膚が張り付いた状態です。1月に引っ越す前は16kgあったそうですが、それが3月に12.2kgになっていました。痩せているうえに全身叩かれて紫色でした。私が診たたくさんの遺体の中でも一番深刻なケースでした。

もう一つは野田の事件です。この9歳の子も身体的虐待がひどく、床に押し付けられて「息つかなかなか止まらないもんだな」と実父である栗原勇一郎に言われたそうです。それを児相に訴えているにもかかわらず、家に帰された。その他「夜中にパパに起こされて窓の外に誰かいるから見てこいと言われた」、「下着を下ろされた」などと児相の職員に訴えています。これも未遂で終わったから、1回だけだから、という理由で認められませんでした。そして1年数か月後に亡くなってしまった。

このような深刻な事件が日本では起こっています。またコロナ禍ではどういことが起きているかといいますと、世界中で虐待は増えています。ただ、それが通告に反映されるかというのは、国または地域によって違います。報道では通告が1~2割増えたと言っていますが、厚労省の発表は1~3月のものです（1月+22%、2月+11%、3月+12%）。毎年日本の児童虐待通告は+15%~20%なので、これは今までの流れで増えているだけで、どれだけコロナと関係しているかは日本ではわかっておりません。海外では、新しいデータが出ているところもあり、やはり多くの所で虐待は増えているようです。要因としては、長期間学校が休業していること、経済活動の停止、家庭で自粛生活を送っていること、など。どんなに健全な家庭でも、子どもも親も長く家庭にいるとイラついてきて、親子関係が難しくなり易いです。これに拍車をかけているのが経済問題です。日本の場合、子育て世帯の貧困化率が高く、特に一人親や非正規雇用の家庭の場合は、今回のコロナの影響をもろに受けています。その日食べるご飯もないといった家庭が増えています。子育て世帯の家庭で相対的貧困にある子どもは、このところ6人に一人から7人に一人に減りましたが、このコロナ禍でまたぐっと増えたと思います。貧困と虐待は非常に密接に関係しているので、どう考えても虐待は増える要因が多い。

ただ、通告と虐待の実態がリンクしているかは、様々です。例えばアメリカでは、学校からの通告が全体の2割を占めますので、学校が休業してしまうと2割減ってしまうのです。アメリカでは日本よりもオンライン授業が進んでいるので、オンラインで何とかSOSを拾えないか、という議論がされています。日本では、小中学校にオンライン授業が広まるまではまだ行っていないようです。子どものセーフティネットになっている学校が機能しない状況をそのまま放置してよいのか、と思います。ちなみに、イギリスでは基本的に学校休業です

が、Children In Needs と言って、虐待のリスクを抱える家庭の子どもは積極的に学校に行かせています。学校に行かせないと親権を取り上げるといって、子どもの安全を確保します。日本では「コロナだから仕方がない」と言って、虐待防止活動がすごく滞っているのが現実です。

3学会（小児科学会、虐待防止学会、虐待医学会）が合同で子供向け、大人向けにメッセージを出しています。どの団体のHPからもダウンロードできますので、身の回りに気になることがあれば、どうぞお役立てください。

【質疑応答】

（玉木会員）

貴重なご講演ありがとうございました。目黒事件では、児童相談所の対処の仕方が問われているかと思えます。

（山田講師）

おっしゃる通りです。目黒事件を受けて国が緊急総合対策を出しました。児童相談所と児童福祉士の増員計画を打ち出しました。ただ、増員すると新人ばかりになり、技術的には落ちてしまいます。質か数か、という問題はずっとありまして、日本の児相職員は、イギリスやアメリカと比べると人口比で20分の1しかいません。まずは数を増やすことにウエイトが置かれますと、新人ばかりで技術が追い付かないということが起こります。質を上げるには教育と経験が必要ですが、日本の児童福祉士の平均在籍年数は3年未満です。経験が全く蓄積されないのです。20年前には、日本の3K職場は看護師さんと言われていました。その後看護大学が出来てきて、ステイタスも上がりました。今は児童相談所が日本の3K職場です。子どもにとって何が良いのかというのは、常に悩ましい状況です。達成感を感じられない、すごくフラストレーションのたまる職場なのです。なので、定着しない。

また、もう一つ問題があります。結愛ちゃん事件の時は、親の承諾が得られなかったのが、児童相談

所は家庭裁判所で承認を取って結愛ちゃんを児童養護施設に入れようとなりました。ところが、この程度の外傷では裁判所は通らなかったという実績が過去にあり、それゆえ諦めてしまった、ということでした。なので、児童相談所のみならず、家庭裁判所の問題が相当大きいです。私も「これで承認取れないの？」というケースをいくつも経験しています。裁判官たちが虐待の問題を、自身の人生と照らし合わせて考えてしまっているのです。世の中には虐待ということがあるのだということを、我が事として彼らは感じられないらしい。「親なんだからきつとちゃんと育てるだろう」という理想論で子どもを保護することを却下してしまいます。裁判官の問題は大きいというのが私の実感です。

⑦ 今後の予定

6月17日 第54回例会	年度最終例会 総括
7月8日 第55回例会	初例会 クラブ協議会



◆尾崎会長より謝礼と記念品授与

山田先生、今日はどうもありがとうございました。こちらは私共の作りましたフェイスシールドです。どうぞお役立てください。

◆フェイスシールド・プロジェクトで功績の大きかった玉木会員にもフェイスシールドが授与された

◆ 閉会点鐘 (尾崎会長)